

## 木造住宅・木造建築物等の整備促進に関する調査・普及・技術基盤強化 成果報告書

事業の名称	循環型社会、低炭素社会における木造住宅の重要性、可能性を学ぶ、伝える。
事業者情報	事業者名：OMソーラー株式会社 事業担当者名：中村正吾 連絡先：053-488-1700 090-9337-8569
補助事業の区分	木造住宅・建築物等の整備推進に関する ①調査を行う事業      ②普及を行う事業      ③技術基盤強化を行う事業 以上の①から③の中から該当するものを選択し、○をつけて下さい。
<p>1. 事業の概要</p> <p>現社会の課題である、低炭素化社会、循環型社会の構築をふまえて、木造住宅、木造建築の重要性、可能性を考え、学び、その過程および結果を広く多くの方々に伝え、木造住宅、木造建築の普及促進を図ることを目的として、本事業を実施した。</p> <p>本事業では、既存の考え方や捉え方を超える取り組み、新しい価値感に基づく取り組み、地球環境に配慮した考え方や評価などを、考え、学び、伝えるために、著名な専門家を講師としたシンポジウムの開催とアンケート調査をした。そして、シンポジウムに参加出来なかった方のために、そのレビューを実務者等への認知度が高いWEBページにて公開した。同時に、実務者等への認知度が高い雑誌にて主講師の取り組み、考えを紹介する事により、相乗的な波及効果を期待した。</p> <p>実施事項</p> <p>1. シンポジウム開催      2011年3月10日 木曜日 会場：ベルサール九段（東京都千代田区）</p> <p>講師      野沢正光      （武蔵野美術大学 客員教授、野沢正光建築工房 代表）             難波和彦      （東京大学 名誉教授、難波和彦・界工作舎 代表）             中村好文      （日本大学 教授、レミングハウス 代表）             三澤文子      （MOK-MSD 代表 岐阜森林アカデミー 非常勤教授）             清家剛      （東京大学 准教授）             稲山正弘      （東京大学 准教授）             田岡秀昭      （森昭木材 代表取締役）</p> <p>※シンポジウムの告知広告を、日経BP社のメールマガジンにて実施</p> <p>2. シンポジウムと連携した広告特集を日経BP誌にて掲載</p> <p>掲載誌      日経アーキテクチュア      2011年3月10日号             日経ホームビルダー      2011年4月号             日経エコロジー      2011年4月号</p> <p>3. アンケート調査の実施および分析</p> <p>a：シンポジウム申込WEBサイトを設置し事前アンケートを実施 b：シンポジウム後のアンケート調査をシンポジウム会場にて実施</p> <p>4. シンポジウムレビューを実務者等への認知度が高い日経BPnetの建設系および環境系それぞれのWEBサイトに掲載した。同時にOMソーラーWEBサイトにも公開した。</p> <p>日経BPnet：ケンプラッツ（建設系WEB）      ECO JAPAN（環境系WEB）</p>	

※本報告書は各ページ毎に1つの項目を記載することとし、全3ページとする。なお、本報告書以外にも別添の資料がある場合は2枚を限度に本報告書に添付すること。

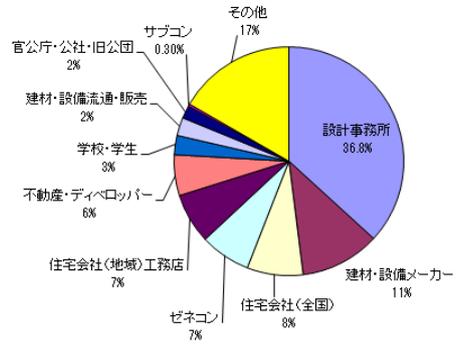
事業の名称 循環型社会、低炭素社会における木造住宅の重要性、可能性を学ぶ、伝える。

2. 事業で得られた成果

1. シンポジウム開催

申込人数 657名 参加人数 387名

当初目標 200名参加を大きく上回る大きな効果が得られた。

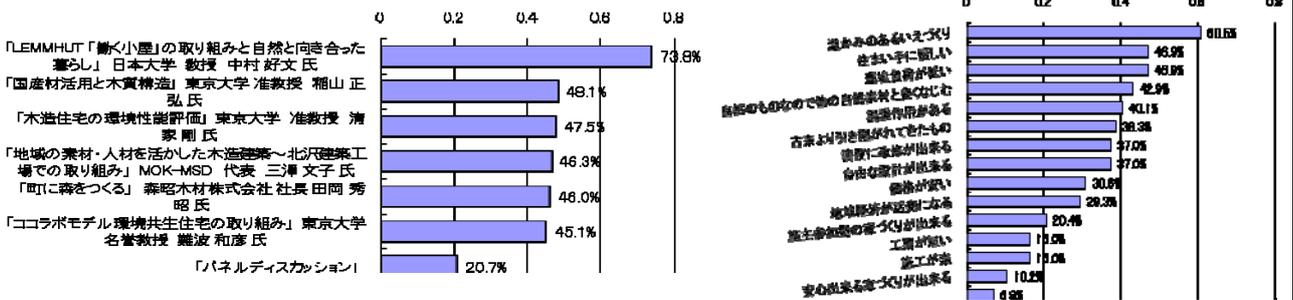


申込者業種内訳

2. シンポジウムと連携した広告特集を行った。



3. アンケート調査の実施および分析を行った。下記はシンポジウム後のもの。他は別添による。



設問:各講演のなかで参考になった講演内容にチェックしてください(複数回答可)

設問:ご自身の仕事を鑑みて、木造住宅・木造建築のメリットと思われるものを全てご選択下さい。(複数回答可)

4. シンポジウムレビューを日経BPおよびOMソーラーWEBサイトに掲載した。



- 日経BPケンプラツ  
[http://special.nikkeibp.co.jp/ts/article/a\\_a0c/108542/](http://special.nikkeibp.co.jp/ts/article/a_a0c/108542/)
- 日経BP ECO JAPAN  
[http://special.nikkeibp.co.jp/ts/article/a\\_a0c/108540/](http://special.nikkeibp.co.jp/ts/article/a_a0c/108540/)
- OMソーラー  
<http://omsolar.jp/info/symposium20110310.html>

※本報告書は各ページ毎に1つの項目を記載することとし、全3ページとする。なお、本報告書以外にも別添の資料がある場合は2枚を限度に本報告書に添付すること。

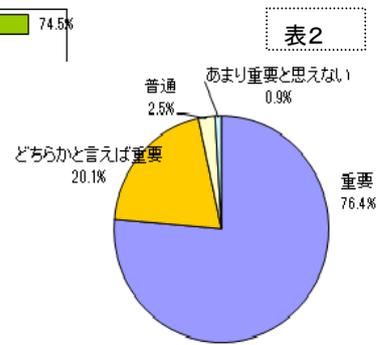
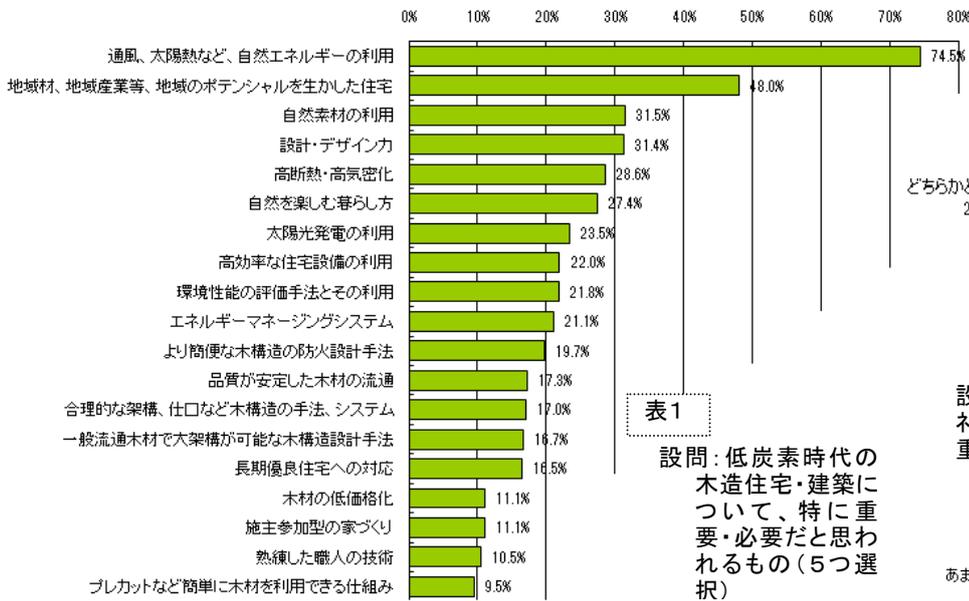
事業の名称

循環型社会、低炭素社会における木造住宅の重要性、可能性を学ぶ、伝える。

### 3. 今後の展望及び成果の普及方法

シンポジウムは、当初 200 名規模を想定していたが、平日午後 13:00~17:10 分と長時間の開催にも関わらず、参加人数 387 名と非常に多く参加があった。また、申込をし、事前アンケートに答えて頂いた人数は 657 名と、非常に大きな反響を得られた。シンポジウムでは、途中退場者は僅かで、当日のアンケートには、324 名に協力して頂き、関心の高さがうかがえた。

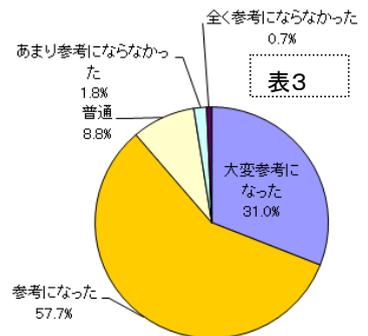
【表1】は、シンポジウム申込時でのアンケート結果の一部である。低炭素時代の木造住宅・建築について、特に重要・必要だと思われるものについて、5つ選択して頂く設問をした。結果、【通風、太陽熱などの自然エネルギー利用】を74.5%と非常に多くの方が選択され、【地域材、地域産業等、地域のポテンシャルを生かした住宅】が、48.0%と次ぎ、この2つが突出している。【表2】は、シンポジウム後のアンケートで、【通風、太陽熱など、自然エネルギーの利用、パッシブデザインの重要性】を問う設問をし、96.5%が重要・どちらかと言えば重要、と回答している。



設問: 通風、太陽熱など、自然エネルギーの利用、パッシブデザインの重要性度は。

設問: 低炭素時代の木造住宅・建築について、特に重要・必要だと思われるもの(5つ選択)

今後、突出している2つを基軸としながら、関心の低かった項目についてもさらに分析し、低炭素社会における木造住宅の普及を推進していきたい。今回のシンポジウムには、88.7%が参考になったと回答している【表3】ことから、実務者に、低炭素社会における木造住宅についての知識や動機づけを与えるための、シンポジウム、勉強会、設計・住まい方などの提案競技などの開催を実施していきたい。

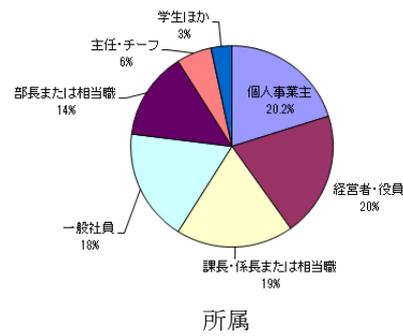
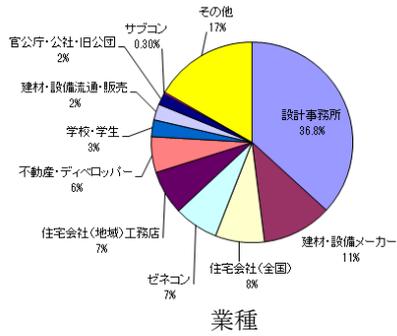


設問: 本日のシンポジウム全体及び各講演に対する評価はいかがでしたか。

成果の普及方法としては、シンポジウムレビューを実務者等への認知度が高いWEBページ、日経BPnetに公開しており、並行し、OMソーラーのWEBでもシンポジウムの模様を報告している。OMソーラーのWEBでは、逐次、今回のテーマである、【循環型社会、低炭素社会における木造住宅の重要性、可能性を学ぶ、伝える。】に関連する情報を発信していきたい。

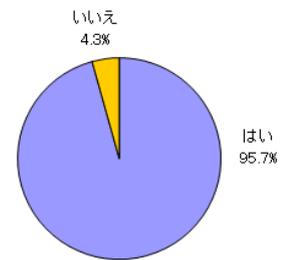
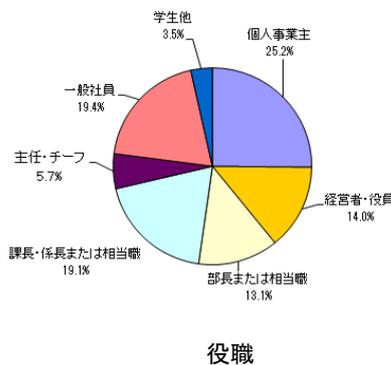
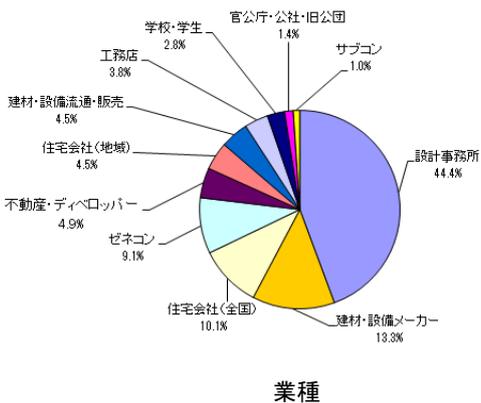
※本報告書は各ページ毎に1つの項目を記載することとし、全3ページとする。なお、本報告書以外にも別添の資料がある場合は2枚を限度に本報告書に添付すること。

申込時アンケート 回答者数 657名 ※3 ページ表 1 も参照。



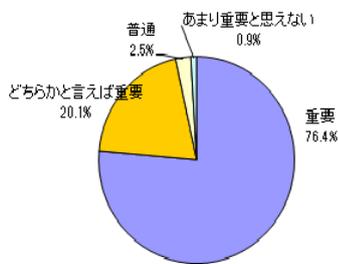
設問: シンポジウムで興味のあるものについて(2つ選択)

シンポジウム終了後アンケート 回答者数 324名 ※2 ページ 3、3 ページ表 3 も参照

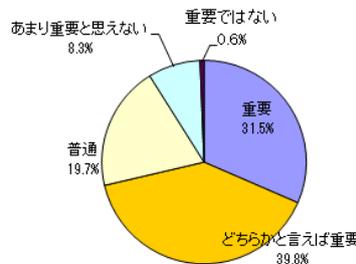


設問: 今後、ご自身のお仕事において国産材を利用したいと思いますか。

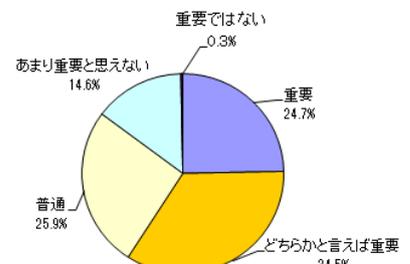
設問: シンポジウムを終え、低炭素時代の木造住宅・建築のあり方として、下記の各項目についての重要度合いについてお聞かせください。



A) 通風、太陽熱など、自然エネルギーの利用、バッドデザイン

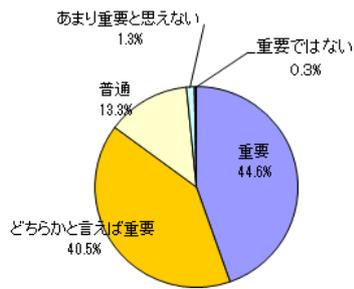


B) 太陽光発電、高効率な住宅設備、エネルギーマネジメントシステムの利用

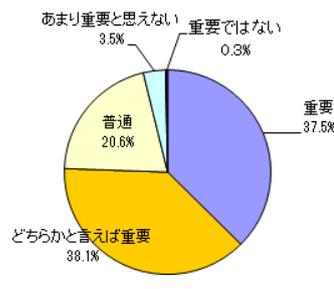


C) 次世代省エネルギー基準を上回る高断熱・高气密化

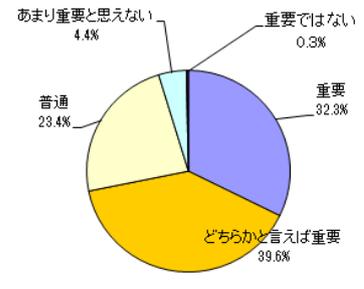
※本報告書は各ページ毎に1つの項目を記載することとし、全3ページとする。なお、本報告書以外にも別添の資料がある場合は2枚を限度に本報告書に添付すること。



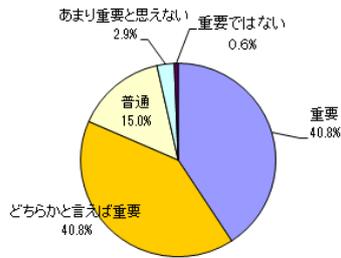
D) 自然素材の利用



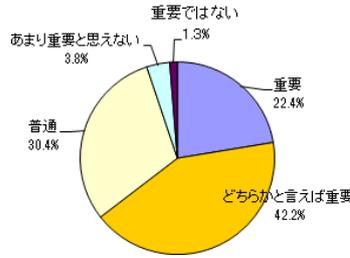
E) 合理的な架構、仕口など木構造の手法、システム



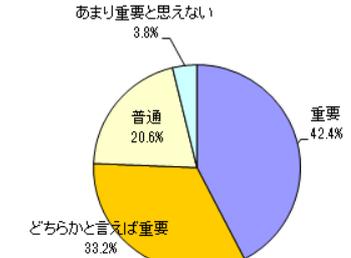
F) 一般流通木材で大架構が可能な木構造設計手法



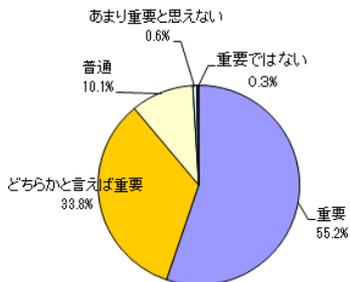
G) より簡便な木構造の防火設計手法



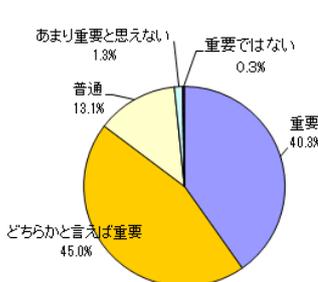
H) プレカットなど簡単に木材を利用できる仕組み



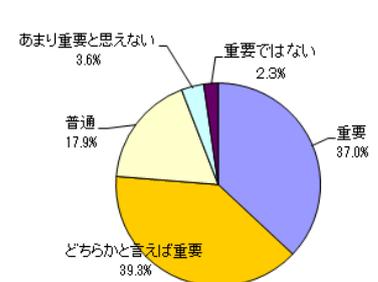
I) 熟練した職人の技術



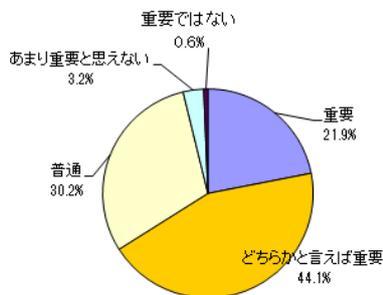
J) 品質が安定した木材の流通



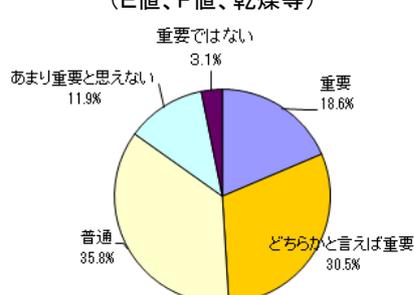
K) 各材の性能が明記された木材 (E値、F値、乾燥等)



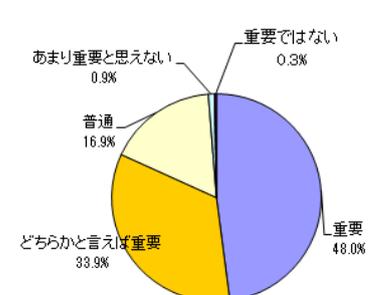
L) 木材の低価格化



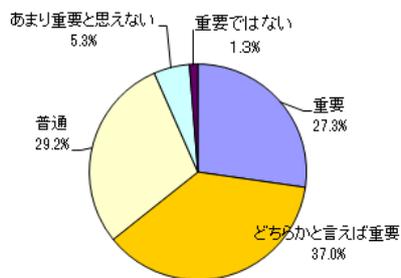
M) バイオマス燃料を利用した木材乾燥、ウッドマイルージなどを意識した木材の利用



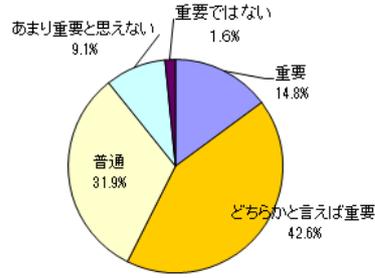
N) 長期優良住宅への対応



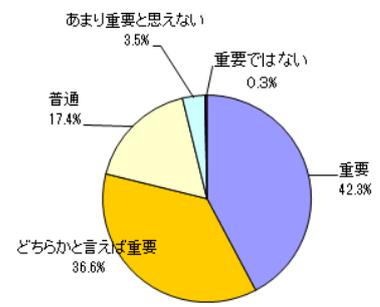
O) 設計・デザインカ



P) 木材を積極的に表す設計・デザイン(真壁など)



Q) 環境性能の評価手法とその利用



R) 自然を楽しむ暮らし方、施主参加型の家づくり

※本報告書は各ページ毎に1つの項目を記載することとし、全3ページとする。なお、本報告書以外にも別添の資料がある場合は2枚を限度に本報告書に添付すること。